

さぬき市教育事務点検評価委員会（第1回） 会議要旨（要約）

- 1 日 時 平成27年7月22日（水） 9：30～11：59
- 2 場 所 さぬき市教育委員会2階会議室
- 3 出席者 [委 員] 宮本 強 伊座並大一 鈴木 珠美
 [事務局] 安藤教育長 和田教育部長
 間島教育総務課長 谷学校教育課長
 中野生涯学習課長 石原学校再編対策室長
 山中学校教育課主幹 富田教育総務課副主幹
 [傍 聴] なし
- 4 議 題 (1) 教育委員会の事務の点検及び評価制度の趣旨等について
 (2) 教育委員会の事務の点検及び評価報告書の内容について
 (3) その他
- 5 会議の内容は、次のとおりである。

発言者	意見概要
(事務局)	ただ今から、さぬき市教育事務点検評価委員会（第1回）を開会します。開会に当たり、教育長から御挨拶を申し上げます。
(教育長)	(教育長あいさつ)
(事務局)	お手元に配布している次第に沿って会議を進めます。初めに、「教育委員会の事務の点検及び評価制度の趣旨」について説明します。
(事務局)	(点検・評価の概要について説明)
(事務局)	続いて、「教育委員会の事務の点検及び評価報告書の内容」について説明します。Ⅱのうち、まず、各施策の個別評価・成果と課題・改善策について、それぞれ担当課長から説明した後に、点検評価総括表について説明し、その後、Ⅲについて説明するものとします。
(事務局)	(各施策の個別評価・成果と課題・改善策について説明) (平成26年度に実施した施策の点検評価総括表について説明) (教育委員会の活動状況及び資料について説明)
(事務局)	ただ今の説明について、質問・意見等はありませんか。
(委員)	3ページ。総括表は、個別施策の評価の積上げとなっているが、BがAになったものもあるがAがBになっているものもある。次年度に向けて、評価が上がるよう努力してください。 5ページ。幼保一体化とは、幼保の情報交換や人事交流のことを指していますか。それとも、施設・制度的そのものの一体化を指していますか。
(事務局)	就学前の子どもに対する行政施策は、幼稚園と保育所の2本立てになってお

	<p>り、かねてからの課題でしたが、これについては、制度的な一体化が国全体の流れでもあります。この課題に対して、計画策定時においては、当面できることとして検討・研究や研修会の開催を掲げていたものです。</p> <p>少子化のますますの進展により、地域によっては好むと好まざるとにかかわらず幼稚園と保育所の一体化に迫られるときがくると思っており、そのときになって慌てることのないよう、今のうちから準備を進めているというものです。</p>
(委員)	<p>9ページ、13ページ。学校の実践例を市内全体に広げられなかったとあることについて、共有できるよう改善が必要だと思えます。</p>
(事務局)	<p>御指摘のとおりです。「ふるさと教育」については、指定をし、研究を進めてきたところですが、その報告書の様式についての吟味が十分ではなかったため、当該報告書をそのまま他校への周知に用いることができませんでした。他校への周知が容易となるよう、様式の改正を検討しています。また、道徳の研究についても同様です。「体力づくり」については、県の施策に用いる報告書が、各校の取組が整理されているので、今年度はこれを活用して周知につなげたいと考えています。</p>
(委員)	<p>9ページ。「司書がない」ことを課題としているものの、配置のことには触れず、「職員を育てる」とあるのは、目標が定まっていないのではないですか。</p>
(事務局)	<p>市内2つの図書館において、正規職員3名のうち司書資格を持つ者は1名、残る司書は嘱託職員で対応しています。館運営全般としては、この体制でも可能ですが、幼い子どもへの関わりや学校図書館等に特化した取組を考えた場合に、これに対応できる司書が少ないという趣旨であり、その養成が必要というものです。</p>
(委員)	<p>12ページ。いじめについて。岩手県の例では、体制づくりや手立ては整っていたはずだが、気付いた職員が意識して把握してなかったのではないかと思うところ、同じことのないよう、一人一人の教員への意識付けも重視して取り組んでほしいです。</p>
(事務局)	<p>御指摘のとおりです。管理職に対しては、園長・校長研修会等の機会を通じて指導しているところですが、それが個々の教員にまでは届いていないことも見受けられます。各学校では、いじめ防止基本方針を定めており、これを見る限りにおいては、それに従い対応すれば大丈夫と考えていますが、個々の教員の「意識」を高められるよう、取り組んでいきたいと思えます。</p>
(委員)	<p>15ページ。育成センターの機能の充実。通級生が増えている一方、学校に戻る子どもも増えていることは、良いことです。ただ、通級生のための教材教具が十分ではないとのことなので、是非、整備してほしいです。</p>
(事務局)	<p>教材教具の整備については、閉校後の学校備品の活用を中心として、必要に応じて購入するなど対応していきたいと考えています。</p>
(委員)	<p>12ページ。「シェイクアウト訓練」とあるのは、どのようなものですか。この用語は、一般に通じる表現ですか。</p>

(事務局)	<p>「シェイクアウト訓練」とは、香川県庁が、県民、学校、幼稚園・保育所、企業をはじめとして幅広く参加を呼び掛けている「県民いっせい地震防災行動訓練」で、市内の学校・幼稚園でもこれに積極的に取り組んでいます。主な内容は、緊急地震速報が流れたと仮定して、①姿勢を低くする、②頭を守る、③じっとするといった3つの行動を訓練するものです。</p>
(委員)	<p>最近では、国で何かをしようという傾向が強いと思います。例えば、報道にもあったような「教員資格の国家免許化」や、成果と課題にも記述が見られる「道徳の教科化」などです。「道徳の教科化」については、個人的には違和感を感じる場所です。国が決めたことを守って実施することも大事ですが、1つの市として合併しても、合併前の旧町には、それぞれ様々な違いがあり、教育委員会や学校は、その地域の独自性を生かした取組を行ってほしいと思います。</p> <p>学校のことを知ろうと思えば、学校のホームページには掲載されていますが、世代によっては、そのホームページを開いて情報を得るということは困難です。小学校からは、毎月、「学校だより」が届くので、学校の今を知ることができますが、中学校からは、そのようなものが届いたことがないので、地域の人は、中学校が何をしているのか分かっていないと思います。「地域に根差した」と言うけれど、小学校に比べると中学校の取組は不十分ではないかと思います。</p> <p>13ページ。小学校において、「心豊かな」という言葉を学校の教育目標に掲げている学校が多いですが、前回の施策評価ではAであったところ、今回はBになっています。「推進校を核にした研究の推進」に対する評価だとは思いますが、推進校でなくても道徳教育は重要なポイントなので、全ての学校が推進校ぐらいの気持ちを持って取り組むことを希望します。</p>
(事務局)	<p>今回の評価がBであることについては、「推進校を核にした研究の推進」という項目に照らし合わせると、26年度での取組が少し弱かったのではないかといいことでBとしたものです。決して前年度から取組が後退したという意味ではありません。また、御指摘のとおり、道徳教育は大切なものだと認識しており、推進校に限らず全ての学校で取組を充実させていきたいと思っています。</p>
(委員)	<p>教育振興基本計画中の「さぬき市の教育施策の実現に向けて」について。「市長と教育委員会の情報・意見交換会」とあります。当然、実施していることと思います。さらに、「法律に基づき、市長に対して必要な予算の確保について意見を申し出るものとします。」とあります。このことについて、市の財政状況が厳しいことは承知していますが、全ては教育の充実に向けて、是非とも頑張りたいと思っています。</p>
(事務局)	<p>教育委員会の活動状況のうち、22ページの「その他主な行事・研修会等への委員の出席状況」にあるように、26年度においても11月17日に「市長との教育政策懇話会」を開催し、市長と教育委員全員とで意見交換の場を設けました。</p> <p>なお、本年4月から法律が改正され、いわゆる新しい教育委員会制度がスタートし、市長と教育委員会との協議・調整の場である「総合教育会議」を設置する</p>

	<p>ことが法律で決められました。さぬき市においても、すでに第1回の会議を5月26日に開催したところです。当面は、法律で策定することが決められている「教育大綱」について協議することになります。御指摘のような教育予算についても、協議することになります。</p>
(委員)	<p>5ページ。「うちの学校(園)自慢」冊子について。どのようなものか、成果物があれば見たいです。</p>
(事務局)	<p>「うちの学校(園)自慢」については、冊子化するには至っていません。計画に掲げたものの、何をもちょう学校の特色と捉えるのかが曖昧であったことや、異動等で管理職によって重点も異なることもあり、属人的でない「学校」の特色というものを、目に見える形にして冊子化することは非常に困難なことであったと考えています。ただ、様々な取組をやっていく中で見えてくるものがあると思うので、そのようなことが把握しやすいように、年度当初に、学校ごとの教育目標や取組の重点の提出を受け、それを一覽にまとめたものは、作成しました。</p>
(委員)	<p>7ページ。奨学金について。目標額にほぼ近い貸付額実績ですが、これは、第1次募集で達成したものです。定員割れによる2次募集を行いましたか。</p>
(事務局)	<p>奨学金の貸付けについては、予算の関係もあり、当該年度の定員を予算の範囲内で設け、決定しているところです。平成26年度分においては、その定員を超える応募があり、第1次募集のみで決定したものです。</p>
(委員)	<p>10ページ。文化財資料の基礎整理が8割完了したとあることについて、この整理作業を行っているのは、どこですか。</p>
(事務局)	<p>この基礎整理は、旧町に分散保管されている遺物、農具や埋蔵物を対象としているものです。旧長尾町であれば旧長尾町給食センター、旧津田町であれば郷土館、旧大川町であれば歴史民俗資料館です。各地に点在している資料の品目や数量を、まずは把握するために行っているもので、イメージとしては目次を作っているようなものです。それが8割程度を終えたというものです。</p>
(委員)	<p>14ページ。地産地消の推進について。実績値が34%であり、前年度を上回ったとのことですが、1%上昇させるのには相当の努力が必要なのではないかと思いますが、どの食材をもって比率を高めたのですか。</p>
(事務局)	<p>この比率は、全体の食材数のうちの県内産の食材数の割合で捉えているものです。学校給食は、決められた日時に一定の量を確保しなければならないという特性がありますが、食材選びは、天候や価格変動の影響を受けやすいものです。25年度では、夏場の天候不順により野菜価格の高騰があり、県内産の野菜を使うことが困難でしたが、26年度では、そのことが少し解消されたことも要因の1つです。</p>
(事務局)	<p>他に質問等がないようですので、その他に移ります。 (意見書の作成・提出について説明、次回日程の調整) 次回は、8月18日(火)午前10時から、教育委員会会議室で行います。 以上で会議を終了します。</p>